

「世界とつながる岡山市」

2月の社会科は「世界とつながる岡山市」です。岡山県内の特色ある地域として、今回は岡山市を取り上げ、岡山市で国際交流がさかんな理由を学習しました。

まずは岡山市にはどのくらいの外国人が訪れるのかを調べました。資料を調べていくと、過去3年間の観光客数の伸びを表したグラフから、後楽園や岡山城にはたくさんの外国人が訪れていることが分かりました。そこから「岡山市では、どのように国際交流に取り組んでいるのだろう」という学習問題を立てました。

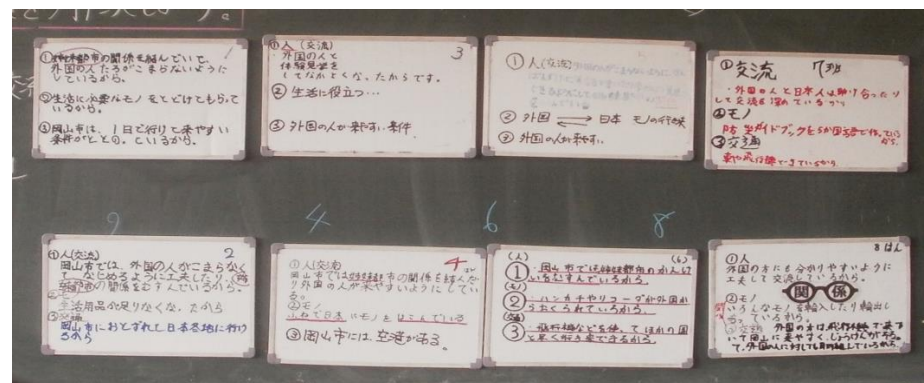
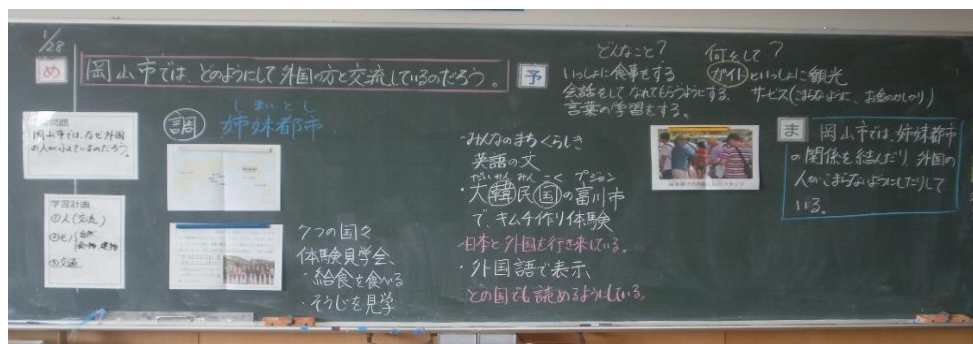
次に計画を立てました。学習問題を基に、「交流」「物流」「交通」を視点に調べていくことにしました。国際交流の取組としてはじめに、人との交流について調べました。資料を基に調べていくと、外国語で書かれた案内板やホームページなどがあつたり、観光地には外国人対応スタッフがいて観光客一人一人に合った案内をしたりしていることが分かりました。

様子を見学し、交流があつたことを知りました。学校で掃除をする習慣があまりない海外の人たちの、「掃除を一生懸命する姿に感動した」という感想から、外国との文化の違いにも触れることができました。

このように、「交流」「物流」「交通」の視点を基に調べて分かったことから、学習問題を解決し、「岡山市では、外国人にとって住みやすい、行きやすいまちづくりをして国際交流に取り組んでいる」とまとめることができました。



単元の最後には、自分たちが主体となって国際交流をより深めていくためにはどうすればよいか考えました。班ごとに分かれて意見を出し合い、班で一つにまとめて発表しました。そして、より多くの外国人に来てもらうために、外国人がたくさん訪れる場所には観光を楽しむ工夫をしたり、外国人が訪れやすいまちにしたりすることが大切ではないか、という考えにまとまりました。



また倉敷市でも国際交流が行われていることが分かりました。実際に、老松小学校では体験見学会が開かれ、ケネディ駐日大使や各国の代表が学校の